

①戦後七十年の記事を読んだ

高岡市立高陵中学校

二年

西田

祐輝

今年、七十回目の終戦の日を迎えた。それにともない、僕は、戦争についての記事を読んだ。「安保法案」、「原爆」、「七十年談話」というキーワードを見つけた。

まず、「安保法案」については、普段新聞を読まない僕にとり、初めに聞く言葉だっ

た。調べると、自衛隊法改正案など十の法律の改正案と一つにまとめたもの、ということだった。有名な自衛隊法改正案は、集団的自衛権だ。その事について、安倍晋三首相は、「国民の命と平和な暮らしを守り抜くために必要不可欠。」と述べた。だが、集団的自衛権は、反対者の声も多く、少し心配な気持ちもある。今後の日本に大切な事なのか、しっかり考えたいと思うた。

次に、「原爆」について、長崎は九日、

被爆から七十年の日を迎え、長崎市の平和公園で長崎原爆犠牲者 霊平和祈念式典が営まれた。式典では、被爆者の人が「戦争にながら安保法案は、許すことができない」と政府を批判した。先ほどの集団的自衛権の反対者の声とは、被爆者からの声でもあるということが分かった。

最後に、「七十年談話」について、過去には戦後五十年の時や戦後六十年の時におかれ、侵略などをキーワードとし、盛り

込まれていた。それは、今後の中国や韓国など外交への影響を考慮したとみられた。そして、戦後七十年の今年には、安倍首相の談話がおわいを表明する。ただ、安倍首相自身のおわいの表明なのか曖昧だと批判される可能性もあるという。しかし、各国の人におわいの気持ちや伝えられるようにしたい欲しい、僕は思う。

僕は、新聞を読んでは、平和が続くということは、すびく難しいことだと思った。今、

スラム国では、子供まで戦争に巻き込まれて
いる。僕は、そんな国のために、被爆国が
ある日本が戦争に参加するということには、
違う。でも、ガッパはいけないことだと思
う。少しでも早く、核兵器のない世界、戦
争のない世界になることを僕は、願っている。